

<科目ごとのアセスメント・ポリシーの明確化>

経済学部では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した能力（ラーニング・アウトカムズ）を、アセスメント項目として設定した。その上で、各能力が、学部必修科目・主要科目によって達成可能であることを、下表によって確認できる。経済学部では、学習するすべての学生が、学位授与方針示した能力（ラーニング・アウトカムズ）を修めることができるように、科目が配置されている。

アセスメント項目 ディプロマ・ポリシー（Learning Outcomes）	ミクロ経済学	マクロ経済学	経済数学入門	経済と歴史	基礎統計学	IP科目群	演習 I・II	演習 III	演習 IV、卒業論文
(1) 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる。	◎	◎							
(2) 数量的・統計的データを正確に理解することができる。			◎		◎				
(3) 日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる。				◎					
(4) 経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる。						◎	◎	◎	◎
(5) 世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる。							◎	◎	◎
(6) 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できる。							◎	◎	◎
(7) 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる。							◎	◎	◎

※この表では各科目との関連性が最も高い項目に◎が付いている。

<主要科目のアセスメント・ポリシー>

経済学部では、学位授与方針を基に、各科目で身に付けることができる能力（ラーニング・アウトカムズ）を定め、かつそれを履修要項に明示している。このことによって、受講学生が各科目でどのような力を修得できるかを知ることができる。また、主要科目では、以下の様に、各能力がどのような授業内容によって修得できるかを明示し、成績が「B-」（2018年度以前の入学生では「B」）以上であれば、同能力が修得できたと考えられることを基準に成績評価を行っている。以下、成績評価、単位認定に関して経済学部の（選択）必修科目を中心に具体例を記す。

【ミクロ経済学】

ミクロ経済学では、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる力を養うために、日常の経済問題を理解するために必要なミクロ経済学の基礎理論を学び、またその理論を用いて政策提案を理解し評価する能力を養う。具体的には、需要・供給曲線を用いた市場分析や、基礎的な消費者理論・生産者理論の学習を通して日常の経済問題を理解する力を養成する。また、価格規制や課税といった政策が市場の成果にどのような影響を及ぼすか、政策の実施が経済厚生にどのような変化をもたらすかを学習するなかで、政策を理解・評価する力を養う。その達成度は、中間試験、定期試験において、世の中の出来事が均衡に与える影響、市場価格が消費者や生産者の意思決定に与える影響、および政府の政策が市場の成果や人々の厚生に与える影響を、複眼的視点から論理的に考察する問題を通して測定する。その結果、成績が「B-」以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

【マクロ経済学】

マクロ経済学では、経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる力を養うために、長期、短期の2つの視点から、いかえれば古典派、ケインズ派という対立するアプローチから、マクロ経済学を整理し、各種の政策手段によってもたらされる経済効果の違いを学習する。グラフや数式等を用いた経済理論の学習を通し、論理的に理解し、分析する力を身につけるとともに、現実の統計データに触れることを通じて、数量的・統計的データを正確に理解することができる力を養う。

具体的には経済学部の初年次必修科目であるマクロ経済学では、まず基本的な専門用語を正確に理解させることからスタートする。これは各回の授業において用いられるキーワードについて事前に調べてくる予習課題を課し、授業のはじめには簡単なディスカッションさせたいうで、講義を進める。そして各章が終わるタイミングでキーワードについて小テストを行い、専門用語に対する正確な理解度を測定している。

次にマクロ経済理論を論理的に展開し、理解・分析することができる力を身につけられるように、講義内ではグラフや数式等を用いて学習する。そのうえで数値例にもとづいて、計算練習をし、学習した内容を論理的に理解し、分析する力が身につけられたかを確認する。

GDP や物価、失業率等の経済変数については計測方法や各種統計量の違いについて学び、計算練習を行う。さらに現実の経済データにもとづいて日本やアメリカ等の経済の動きについて検証する。こうした学びを通じて、数量的・統計的データを正確に理解できる力を養う。

上記の学習プロセスを経たいうで、ほぼ隔週で課されるホームワークを通じ、ステップ・バイ・ステップに理論を論理的に組み立ていく力や経済理論の理解度を測定する。最後に、経済学を用いて社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析する力を問う計算問題や記述問題で構成される中間、期末試験を行い、総合的に理解度を測定する。

以上の達成度の測定によって、成績が「B-」以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

【経済数学入門 A・B】

経済数学入門では、数量的・統計的データを正確に理解することができる力を養うために、経済学の学習に必要な数学的基礎知識を身につけることを目的とする。数学的な素養に関する学生間のバラつきが大きいことを踏まえ、クラスにおける学生の理解度の差を極力揃えるために、事前のプレースメントテストを通じてクラス分けを行っている。各クラスでは、高校数学の復習に加え、微分に関する諸法則や適化問題の解法を学習する。その達成度は、複数回の宿題、中間試験および定期試験により測定する。宿題では、主に計算問題が出題され、様々な形式の問題に取り組むことで学習した数学上の諸法則の理解度を測定する。また中間試験では、ミクロ経済学、マクロ経済学および統計学に関連した問題が出題され、それらの分野に登場する概念と数学的手続きとの関係性を理解できているかどうかを測定する。そして定期試験では、学習した数学上の諸法則や問題解法の技術を用いて、様々な種類の最適化問題の解を正確に導き出す力が身に付いているかどうかを測定する。その結果、成績が「B-」以上の学生は、上記の力の基礎を習得できたと見なす。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

【基礎統計学】

基礎統計学は、数量的・統計的データを正確に理解する力を養うことを主目的としている。特に基礎的な能力として、社会分析における数量データの役割の適切な理解と、統計分析の結果を理解し解釈できる力、統計ソフトを利用して自ら統計データを分析する力を身につけていく。これらの達成度は、統計分析を実践し数量データの適切な理解を確認する宿題、および統計分析の適切な理解を問う中間試験・定期試験により測定する。

以上の達成度の測定によって、成績が「B-」以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示される理解度およびシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

【経済と歴史】

経済と歴史では、日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる力を養うために、日本と世界の経済史に関する基本的な概念と知識を学び、その知識をさまざまな経済・社会問題を考えるうえで活用する力を授業内のディスカッションなどで養う。その達成度は、中間試験、定期試験における、基本的事実、概念の理解を測定する問題、および、授業内のディスカッションを踏まえた毎回の授業の後の記述式アンケートへの評価によって測定される。

さらに、同科目では、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる力を養うために、ミクロ経済学の理論を踏まえたうえで、その理論とは異なる社会科学の諸

学説も参照しながら、日本と世界の経済の歴史を学ぶ。そのなかで、参照する理論が異なれば同じ問題でも異なった側面からの考察が可能であることを理解し、さまざまな経済問題・社会問題を複数の複数の学説を持って議論をする力を養成する。その達成度は、中間試験、定期試験において、複数の学説を比較して論じる論述試験によって測定される。

以上の達成度の測定によって、成績が「B-」以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

【International Program】

経済問題について、英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる力を International Program では以下の科目において養成する。まず第 1 セメスターでは、Academic Foundations for Economics Majors で、リスニング、リーディングなどの学術英語の基礎を学び、Introduction to Economic Reasoning で、経済学の基本概念を用いた批判的に思考し、自身の考えをプレゼンテーションやライティングによって表現する力を身につける。第 2 セメスターでは、Global Economy Lecture で入門レベルの経済学を学び、Global Economy Laboratory においては、Lecture で学んだ内容を正確に理解し、それに対する自身の意見を論理的に表現する技術を学ぶ。さらに、第 3、第 4 セメスターでは、Economics A Lecture, Economics B Lecture で、それぞれミクロ経済学、マクロ経済学を学び、Economics A Laboratory, Economics B Laboratory で、Lecture で学んだ内容を正確に理解し、それに対する自身の意見を論理的に表現する技術を学ぶ。

その達成度は、各セメスターの毎に中間試験と TOEFL-ITP において測定され、語学力に応じて次のセメスターのクラス分けが決定される。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

ループリックを用いた演習 I, II, III, IV および卒業論文評価によって経済学を用いて問題を解決する力などの達成度を測定する。

【演習 I・II】

演習 I・II では、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる力を養うために、各専門分野の基礎から中級レベルの内容を、テキストの学習や、ディスカッションを通して学び、さらにそれらの専門知識を用いて具体的な社会問題を分析する手法を学ぶ。その達成度を、課題の内容、プレゼンテーションのクオリティ、ディスカッションへの貢献について、以下の学部共通のループリックによって評価する。以上の達成度の測定によって、成績が「B-」以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

演習 I・II ループリック

	非常によい	よい	あまりよくない	よくない	評価対象外
	5	4	3	2	1
課題	課題に真剣取り組み、毎回、非常に質の高い回答を準備している	課題に真剣取り組み、おおむね質の高い回答を準備している	課題に真摯に取り組んでいるが、回答の質はあまり高くないことが多い	課題に真摯に取り組んではいないことがある	課題に取り組んでいない
プレゼンテーション	入念に準備されており、内容・構成が明確で、かつプレゼンテーションの姿勢も優れている	入念に準備はされているが、内容の明確さ、構成、プレゼンの姿勢のうち一つで十分な点がある	準備はされているが、内容の明確さ、構成、プレゼンの姿勢のうち2以上が不十分な点がある	準備が不十分で、内容の明確さ、構成、プレゼンの姿勢のいずれにも不十分な点がある	プレゼンの準備を行っていない
ディスカッション	根拠を明確に示した明確な発現（討議・質問）を積極的に行っている	発言は積極的に行うが、その内容が不明瞭であることもある	発言は積極的に行うが、その内容が不明瞭であることが多い	発現を積極的に行わない	まったく発言しない

A+評価 15点, A評価 14点, A-評価 13点, B+評価 点12, B評価 11点, B-評価 10点, C+評価 9点, C評価 8点, D+評価 7点, D評価 6点, E+評価 5点, E評価 4点以下

【演習 III】

演習 III では、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる力を、また、経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できる力を、さらに、社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる力を養うために、グループによるリサーチを行い、学部内でのゼミ対抗研究発表大会や学外のコンペで成果を発表する。さらに、その成果をジュニア・ペーパーとして提出する。その達成度は、リサーチのクオリティ（課題発見・問題解決、客観的分析・明確な主張）、チームへの貢献について、以下の学部共通のルーブリックによって評価される。

以上の達成度の測定によって、成績が「B-」以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

演習 III ルーブリック

	非常によい	よい	あまりよくない	よくない	評価対象外
	5	4	3	2	1
課題 発見・	先行研究を踏まえてオリジナリ	先行研究の検証、問題のオリジナ	先行研究の検証、問題のオリジナ	先行研究の検証、問題のオリジナリテ	先行研究のコピペの水

門 会 解決	ティがある問題 を設定し、実現 可能性のある解 決策を提示して いる	リティ、解決策の 実現可能性のう ち一つが不十分 である	リティ、解決策の 実現可能性のう ち 2 つが不十分 である	ィ、解決策の実現可 能性のうちのい れもが不十分であ る	準
客 観 的 分 析・明 確 な 主張	課題について客 観的な分析を行 い、自らの主張 を明確なサポー トとともに提示 している	課題についての 客観的分析、明確 なサポートを伴 う主張が行われ ているが、やや改 善の余地がある	課題についての 客観的分析、明確 なサポートを伴 う主張のうちい ずれかが不十分 である	課題についての客 観的分析、明確なサ ポートを伴う主張 のうちいずれもが 不十分である	分析が行わ れておらず、 主張もない
チ ー ム へ の 貢 献	リサーチを成功 に導くため、チ ームの課題を明 確にし、その解 決のために積極 的に取り組んで いる	リサーチを成功 に導くため、チ ームの課題の解決 のために取り組 んでいる	リサーチには参 加しているが、チ ームの課題の解 決のために積極 的に行動するこ とはない	リサーチへの参加 が積極的ではなく、 決められたミーテ ィングに来ないな どチームの足を引 っ張るような行動 が多い	リサーチの チームに事 実上参加し ていない

A+評価 15点, A評価 14点, A-評価 13点, B+評価 点12, B評価 11点, B-評価 10点, C+評価 9点, C評価 8点, D+評価 7点, D評価 6点, E+評価 5点, E評価 4点以下

【演習 IV・卒業論文研究】

演習 IV・卒業論文研究では、社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる力を養うために、教員の指導の下、個人で課題を設定して、経済学を用いてその解決策を提示する。その達成度は、以下の学部共通のルーブリックによって評価される。以上の達成度の測定によって、成績が「B-」（2019年度以前の入学生では「B」）以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

卒業論文評価基準

規準項目	達成度	評価指標
1. 研究の問い	5	研究の問いは明確に述べられ、経済学的意義が明確に示されている。さらに、研究の独創性が明確に示され、既存の研究のなかで位置づけられている。
	4	研究の問いは明確に述べられ、経済学的意義が明確に示されている。
	3	研究の問いは明確に述べられ、経済学的意義が部分的に示されている。
	2	研究の問いは述べられ、経済学的意義が部分的に示されている。
	1	研究の問いが明確に述べられていない。

2. 背景と正当化	5	十分な先行研究が参照され、明確に既存の研究の問題点を指摘でき、明らかに主題は正当化されている。
	4	十分な先行研究が参照され、既存の研究の問題点を指摘でき、主題は正当化されている。
	3	十分な先行研究が参照されているが、既存の研究の問題点の指摘および主題の正当化には、不明瞭な個所がある。
	2	先行研究を集めているが、列挙しているだけである。既存の研究の問題点の指摘は不完全か不明瞭である。
	1	先行研究が非常に少ない。または全く関係ない先行研究が参照されている。
3. 研究方法、分析	5	経済学の用語に基づいて、経済理論が正しく使用されている。また、検証すべき仮説と結果の解釈方法が明確に述べられている。
	4	経済学の用語に基づいて、経済理論が正しく使用されている。検証すべき仮説も述べられている。
	3	経済学の用語を使っているものの、経済理論が誤って使用されているか、問題の本質から逸れている。また、検証すべき仮説も曖昧である。
	2	経済理論とほとんど関係ないが、経済学の用語を使おうと努力している。ただ、検証すべき仮説が曖昧である。
	1	経済理論が全く使われていない。経済学の用語が使用されていない。検証すべき仮説が曖昧である。
4. 実証分析 (質的データ) ※歴史的な記録や資料、理論 経済学上の命題、また哲学的に正当化されている命題など	5	質的データを使い、様々な角度からの議論を尽くして、仮説を検証している。特に、異なる見解に関しても質的データを使って、慎重に考察している。
	4	質的データを使い、様々な角度からの議論を尽くして、仮説を検証している。ただ、異なる見解に関して、さらなる議論の余地がある。
	3	仮説を検証するために、質的データが用いられている。ただし、証拠の適用方法が単純であるか、検証のための議論が不十分である。
	2	適切な質的データを用いて、仮説の正当性を主張しようとしているが、根拠が薄弱である。
	1	質的データが使われていない。または誤って用いられている。
4. 実証分析 (数量データ) ※政府統計や、アンケート調査の結果、数値シミュレーションのデータなど	5	数量データを使い、統計的・計量経済学的手法を用いて、様々な角度から仮説を検証している。特に、異なる見解に関しても数量データを使った分析を行い、結果の頑健性を検証している。
	4	数量データを使い、統計的・計量経済学的手法を用いて、様々な角度から仮説を検証している。ただ、異なる見解に関して、さらなる分析の余地がある。
	3	仮説を検証するために、仮説検定や信頼区間、シミュレーション分析などが用いられている。ただし、その検証方法が単純であるか、分析が不十分である。
	2	適切な数量データを使用し、記述統計量やグラフを使って、主張の正当性を説明しようとしている。
	1	分析に不適切なデータが使用されているか、不適切な手法が使用されている。
5. 要旨と結論	5	論文の内容が適切にまとめられ、結論部分は、理論やデータと整合的である。

	4	政策的な解釈などで、さらに興味深い問題提起がなされている。 論文の内容が適切にまとめられ、結論部分は、理論やデータと整合的である。政策的な解釈、または限界性、今後の研究の方向性などが、ある程度示されている。
	3	論文の内容が適切にまとめられ、結論部分は、理論やデータと整合的である。ただ、政策的な解釈、または限界性、今後の研究の方向性などが、ほとんど示されていない。
	2	論文の内容がまとめられ、結論部分は、理論やデータとおおむね整合的である。
	1	論文のまとめが曖昧であるか、結論が述べられていない。もしくは、結論部分は、これまでの議論との関連性が希薄である。
6. 言語と形式 ※章立て、段落、文法、綴り、文の構造、フォーマット、レイアウト、文字数、参考文献の書式	5	論文として構成が明瞭で一貫している。洗練された文章で、記述において間違いが存在せず、要求された形式で正しく書かれている。
	4	論文として構成が明瞭で一貫している。文章の記述において重要な間違いが存在せず、要求された形式で正しく書かれている。
	3	論文として構成がほぼ明瞭であるが、文章の記述において、いくつかの間違いがある。おおむね正しい形式で書かれているが、間違いもある。
	2	論文として構成がほぼ明瞭であるが、文章の記述において、重要ないくつかの間違いがある。形式にいくつかの逸脱がある。
	1	論文として構成が明瞭ではない。文章記述に関して、重大な間違いが多々あり、必要な形式を満たしていない。または、剽窃がある。

評価基準と達成度 (2019年度以降生)

A+... 26点以上

A ... 25点

A-... 23~24点

B+... 21~22点

B ... 19~20点

B-... 17~18点

C+... 15~16点

C ... 13~14点

D+... 11~12点

D ... 9~10点

E+... 7~8点

E ... 6点

評価基準と達成度 (2018年度以前生)

S... 26点以上

A... 21点~25点

B... 16点~20点

C... 12点~15点

D... 9点~11点

E... 6点~8点